

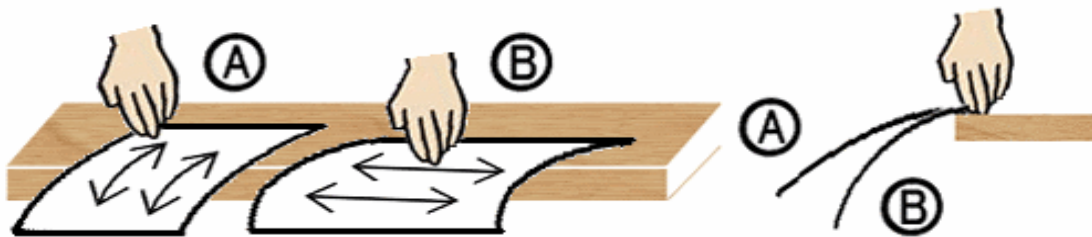
製本のススメ

Vol. 14

桜の季節になりますね。柔らかな日差しにほっと一息と言ったところでしょうか？街には新人があふれて、フレッシュ！フレッシュ！さあ、先輩になった人達は後輩の指導に追われます。さすがは先輩と言われるように、日々精進いたしましょう。

今回は紙目の見分け方のお話

紙目の特徴については、何回も話しをしていますので、十分に理解されている(?)と思います。さて、紙屋さんから注文するときには「タテ目」「ヨコ目」と判りやすく包みには表示されていますが、余っている紙はどうやって見分けますか？刷本には紙目の記載がありませんので、紙を触って弾力の強さで見分けます。むろん破いたり濡らしたりと方法はありますが、預かり品ではそうもいきません。そこで下図の様な方法があります。用紙を机の辺などから垂らして 紙のたわみ具合で調べる方法で、これにより **紙目が台辺と平行か直角なのかがわかります**。平行ならば大きくたわみますし、直角ならば紙の繊維でたわみが少ないのです。



このとき注意なくはいけない点があります

- ① 台から垂らす用紙の量は同じにすること(いくらAの様な紙目でも、ダラ〜んとさせてはいけません)
 - ② 垂らす量(幅)は用紙の半分くらいは出すようにすること(短くちゃわかりません)
- この2点を守って試してみましょう。

既に本になっている場合は、仕方が無いですから手で弾力を判断するより他はありませんね。でも先輩になったのだから、それくらい出来なきゃね〜。



Teabreak

ロダンの彫刻【考える人】は、実は考えているのではなく「見ている」そうです。元はロダンの「地獄の門」という大作の一部で、高さ6メートル幅3メートルの門の形をしており、そこに罪人たちが落ちて行く地獄絵図が立体的に描かれていて、その中で彼は下に広がる地獄を見ているそうです。地獄を見ながら何も考えない訳は無いはずで、そうすると彼は「考えながら見る人」というほうが正しいかも？

by (株) 井関製本